



題字：高校青道部3年 後藤ひかる

▼PTA会長 三浦 恭子

先日、ある事業コンペの審査をさせていただいた時、ユニークな企画に出会いました。それは、女性の活躍をテーマにした「寸劇」の企画で、添付されたシナリオを見て私は思わず吹き出してしまいました。そこには「次のPTA会長に女性がなくても良いのだからか？」と、思い悩む女



5月12日、新年度のPTA総会が高校体育館において、中・高合わせて685名(委任状438名)の出席のもと開催されました。PTA会長には、三浦恭子氏が再選され、平成30年度の活動がスタートしました。

青葉が目にまぶしい好季節、PTA総会を開催しました。今回より、総会時の受付を先生方をお願いし、委員長も授業参観ができるようになりました。曾根崎校長からは、ピアノの辻井伸行氏のお母様による子育ての話がありました。それは「言葉で励ますのではなく、しっかりと見守る。言葉で示すのではなく、態度で表す。」という子育ての方針でした。教職員が生徒たちの良きパートナーとして、手を携えながら教育を進めていきたいと決意も語られました。

総会では平成30年度の各議案全てが承認されました。今回は総会終了後、各クラスの保護者の交流を深める為に、委員長の司会でクラス懇談会が開かれました。

性5人の会話が綴られていたのです。あらら、1年前の私と全く同じ！(笑) 昨年、私を会長に選出して頂いたとき、自分に課した一つの目標がありました。それは「大分豊府を県内で満足度No.1の学校にすること」。生徒・保護者が「豊府を選んで良かった!」、教職員が「豊府で働けて良かった!」と思える学校を目指したい。その実

現のためには、「楽しい」だけでなく「力強いPTA」にならなくてはならない、と思っていました。聞しかありませんから、初年度は「現状を見直すこと」に力を置きました。おかげさまでたくさんの方に協力をお願いすることができました。PTAの最も重要な役割は「保護者と学校を繋ぐこと」だと思っています。ですが、当PTAは生徒数1,200名の大所帯です。多くの声を聞き取り、相手に届け、形にする

在校生数・5月1日現在	
中1年	120名 (男子49名・女子71名)
中2年	120名 (男子67名・女子53名)
中3年	119名 (男子36名・女子83名)
合計	359名 (男子152名・女子207名)
高1年	281名 (男子142名・女子139名)
高2年	276名 (男子118名・女子158名)
高3年	275名 (男子141名・女子134名)
合計	832名 (男子399名・女子433名)

発行 立 大分豊府中学校・高等学校PTA 子会 刊  
責任者 PTA会長 三浦恭子  
編集 広 報 委 員 員  
印刷 佐 伯 印 刷 所

▼研修委員会 内 郁枝

本年度は豊饒祭(文化の部)開催日に、セミナーの開催を予定しています。進路セミナーの予定です。

進路指導の先生や卒業生から、子どもたちの進路に関するお話をしたい。また、研修旅行は九州

▼生活指委員会 清水 美紀

今年度は「すこやかパトロール」「豊饒祭PTAバザー」などの活動に取り組みしていきます。その他、交通安全推進連絡会議にも参加予定です。

また、豊饒祭では「制服のリサイクル」を行います。不要になった制服

▼広報委員会 川本 佳奈

広報部の今年度のテーマは「つながる絆、輝く未来!」です。教職員・生徒・保護者が三位一体となり豊府を盛り上げていく場面、生徒の輝く未来が具体的にイメージできる特集をお届けしていきます。笑顔・感謝・優しさがあふれる情報の架け橋となる広報紙を日指します。どうぞお楽しみに!

新役員紹介

左から 田中 由起子(総務)、後藤 孝子(副会長)、早崎 有希子(副会長)、堀川 宏美(副会長)、三浦 恭子(会長)、吉野 拓磨(副会長)、曾根崎 進(副会長)、辻井 伸行(副会長)、野塚 のりみ(副会長)、小野 悠子(副会長)、村上 若井 裕子(副会長)

会計監査：桑 秀一、馬場 徹朗

あなた 青春に寄り添う

**購買部** パン ドリンク 学用品 文房具

営業時間 9時~13時30分

「歴代人気のパンが勢揃い!」

おいっています

おにぎり 割りばし 5円

「今スグ役立つ文具がズラリ!」

「豊府生の必需品!」

「ロゴ入り自販機出現!」

4月末、春を通り越して初夏のような陽気の中、国立阿蘇青少年交流の家での、高校1年生(33期)の2泊3日のHCC(Hot Challenge Camp)に行ってきました。

緑豊かな大自然阿蘇でのHCCは生徒たちの心を優しくし、気持ちを落ち着かせるものになったと思えます。それは、草むらで弁当を食べながら、寝転がったりしながら、自然の中で生徒たちが集って談笑している姿からも見て取れ、大変微笑ましく感じました。

さて、これまでのHCCと異なる取組をご紹介します。今年度は教科の自主学習の時間をゼロにし、小グループでの探究活動プログラムを重点

的に取り入れられました。「大分でジオパークに認定したい地域とそのためにできること」「熊本震災から考える問題点と対策」の2つの研究課題から1つをグループで選び、学校で事前調査を行い、現地の阿蘇ではオリエンテeringや阿蘇神社とその周辺の湧水泉を廻る水基巡りのフィールドワークを通して、一ノ宮の方々にインタビューや電話での問い合わせなどをしました。それらの情報や感想などをまとめ、グループごとに工夫を

凝らしたプレゼンテーションを用いて作成し、提言発表を行いました。中学校までの学びが活かされるレベルは高く本当に驚かされる学習活動となりました。

生徒の感想には「協力の大切さ」や、「他者の創造的なアイデアなどを学ぶことができた」などが書かれており、本校の新しい総合的な学習の時間「ミラズミ(未来チャレンジ)」がスタートしました。

大分豊府は、これら「ミラズミ(Hot Time)」とともに、「授業」の更なる充実および改善を図っていきます。生徒・教職員が「思考力を育む探究的な学び」「主体的な学び」にChallengeする大分豊府の教育にどうぞご期待下さい。





広報紙「豊流」が九州大会で「優良賞」

平成29年度大分県高P連広報紙コンクールにおいて、27校の応募の中から、「豊流」が優秀紙5校に選ばれ、「優良賞」を受賞。また、九州高等学校PTA連合会沖繩大会広報紙コンクールでも見事、「優良賞」をいただきました。ご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。



編集後記

今年度も目に楽しく、中身の濃い情報をお届けできるよう、広報委員会一同邁進していきたいと思っております。